



INU-KANSATSU

SETAGAYA PUBLIC HEALTH CENTER
PRODUCED BY TADANOINU PROJECT

あなたの犬に鑑札^{かんさつ}が
着いていない理由

- 別の迷子札がついている
- 面倒臭い
- 古いイメージがする
- 犬に邪魔そう
- 着ける理由がわからない
- 法律で定められていることを知らない
- 犬鑑札の存在を知らない

あなたの犬に鑑札は着いていますか

すべての飼い犬は、市区町村に登録し、登録時に交付される「犬鑑札」を装着することが法律で義務付けられています。しかし、鑑札の必要性に対する認知度が低い、大きさやデザインが現在の犬を取り巻く環境に適合していない等の理由から、その装着率は極めて低いのが現状です。そして、鑑札をつけていないために、多くの迷子犬が法律に基づき致死処分されています。この鑑札のデザインや大きさを見直し、必要性を伝えることにより、致死処分される犬を少しでも減らすことができるはず。そんな思いから、「ただのいぬ。プロジェクト」と世田谷区による官民共同の「新鑑札デザイン」計画はスタートしました。そして折よく、2007年に厚生労働省より、これまで全国一律であった鑑札のデザインを、自治体ごとにある程度自由に改変してもよい、という通知が寄せられたのです。

そこで世田谷区は、鑑札の認知度・装着率向上を目的とし、世界的なプロダクトデザイナー、深澤直人さんに新鑑札制作を依頼しました。大きさやコスト、使用しなければいけない文字など、様々な制約がある中で、今の時代の犬鑑札に求められる要素を再検証し、従来の犬鑑札の欠点を可能な限り抑えた、新しい鑑札が完成しました。

小さな犬鑑札ですが、犬たちにとっては命をつなぐとても大きな役割を果たしています。日本中の犬の首輪に、この小さなプレートがついている日々が来ることを願い、犬たちに新しい鑑札をおくりたいと思います。

はじめまして、
世田谷発の犬鑑札です。



映画「犬と私の10の約束」出演のゴールデン・レトリバー、ソックス

犬鑑札のあたらしいデザインのこと

「犬鑑札」と「狂犬病予防注射済票」を愛犬に着けることが飼い主に課せられた義務であるにも関わらず、多くの飼い主が着けない理由として、小さな犬にしては鑑札が大きいとか、かっこわるいとか、着け難いとかいうことをあげています。本当にそのような理由で着けていないのだろうかという疑問もありますし、愛犬が迷子になり、家に戻らなくなることを切実な問題として捉えていない飼い主がたとえ多いとしても、やはり現在の鑑札をよりよく改良できるところはした方がよいのではないかというみんなの思いから、この鑑札のリデザインに取り組むことになりました。

まずは35ミリ×25ミリの大きさを30ミリ×18ミリに小さくしました。このサイズは法律で定められた記載内容と文字の大きさをはめ込める最少の大きさです。エッチング加工だった記載内容も型打ちの凸文字に変え、摩耗や傷に耐えやすくしました。素材はアルミの無垢で厚さが3ミリもあり、薄くて大きなものを、小さくてころっとした固まりに変えました。アルミは酸化したり、傷がついたり劣化しても、それが味になり愛着になります。最初からピカピカなものが傷ついて汚れていくよりも、金属の固まりが渋くなっていくことで愛犬との付き合いが深まっていく。そんな鑑札になってほしいという思いがあります。鑑札とは別に着けなければならなかった「狂犬病予防注射済票」もこの鑑札の裏に小さく貼付けられるようにしました。この新しい鑑札がより多くの飼い主の皆さんの意識を変え、行方不明で処分される犬たちが減ることを心から願っています。

デザイナー 深澤直人

犬鑑札 SF09 デザイン：深澤直人 発行：世田谷区

サイズ：30×18×3mm

素材：アルミ 表面加工アルマイト

体に触れても痛くないように
まるみをつけたシルエットと
しっかりとした厚み3mm

法律で義務づけられている
狂犬病予防注射済票は、
かさばらないシール形式

表



存在感をおさえた
エンボス加工の文字

レーザーによる
登録番号

既存より
小さい
30mm

裏



溝があるため、
はがれにくい

新鑑札の特徴

- 従来のもものよりも小さく、小型犬でも邪魔になりません。
- シンプルかつシックなデザインで、どんな犬にも似合います。
- 素材にステンレスよりも高剛性のアルミを使用し、
安全性、耐久性を向上させました。
- 鑑札の縁に丸味を持たせることにより、安全性の向上を図りました。
- 文字には塗料を使用せず、長年使用しても文字が磨耗しません。
- 表面や汚れが酸化でくすみ、それが味になります。
- 使用済み鑑札の回収を積極的に行いリサイクル素材としても活用。
- 狂犬病予防注射済票は、鑑札の裏に貼り付けるシール形式。
アルミ素材の鑑札とシールをあわせた際の軽量化に成功しました。
鑑札と済票の接触による「カチャカチャ音」がなくなります。

どうして「犬鑑札」が必要なのでしょう

日本全国の犬の致死処分数は、年間約12万頭に上ります。しかし、この中には、捨て犬だけではなく迷子犬の数も多く含まれていることを知っているでしょうか。

狂犬病は、日本や英国など一部の地域を除いては現在でも全世界で発生し、感染し発症すると100パーセント死に至る恐ろしい病気です。この病気の蔓延を防ぐために、日本では「狂犬病予防法」という法律が定められています。この法律に基づき、犬を飼う場合、生後91日以降から市区町村に登録を行い、また飼い犬に年1回の狂犬病予防注射をすることが義務付けられています。この登録の証として交付されるのが犬鑑札なのです。鑑札がつけられていない迷子犬や徘徊犬は、「狂犬病予防法」により保護抑留することが決まりとなっています。犬たちは約1週間の公示期間中に飼い主が引き取りに来なければ、残念ながら致死処分されてしまうのが現状です。平成18年度、全国で処分された約12万頭のうち、「飼えない」と持ち込まれた犬を除くおよそ6割の犬が、実はこの鑑札をつけていないことが原因で、その寿命を全うできていないと考えられるのです。近年、そうした犬たちにできるだけ生きる機会が与えられるよう各自治体やボランティア団体による譲渡活動も勧められています。人にとっても犬にとっても暮らしやすい街づくりのために、この新しい「犬鑑札」の導入が一つのきっかけになることを願います。

世田谷区世田谷保健所
財団法人せたがや文化財団 生活工房
ただのいぬ。プロジェクト

◎深澤直人 プロフィール

1956年山梨県生まれ。プロダクトデザイナー。1980年多摩美術大学卒。国内外のプロジェクト多数手掛け、2007年ロイヤルデザイナー（英国王室芸術協会）の称号を授与される。携帯電話INFOBAR、neonや無印良品の壁掛け式CDプレーヤー、±0の加湿器がニューヨーク近代美術館永久収蔵品となるなど、受賞は50を超える。

◎ただのいぬ。プロジェクト プロフィール

デザインやアートの力で致死処分される犬たちの問題をわかりやすく伝えていくことを目的とするプロジェクト。メンバーは写真家の服部貴康、クリエイティブディレクターの小山奈々子、財団法人せたがや文化財団 生活工房。

公式サイト <http://setagaya-ac.or.jp/ldc/tadanoinu/>

**世田谷区の新しい犬鑑札は平成21年4月1日より交付
します。まだ犬の登録をされていない方は、必ず登録
をお願いいたします。**

< 飼い犬の登録・鑑札交付 >

生後91日以上の子犬を飼い始めた場合は登録が必要です。

・手数料……………登録／3000円 再交付／1600円

※鑑札を紛失した場合は再交付します。※現在鑑札をお持ちでも新しい鑑札に替えたい場合は再交付いたします。旧鑑札をお持ちください。

< 注射済票交付 >

平成21年3月2日以降動物病院で狂犬病予防注射を受けさせ、証明書を下記窓口にお持ちください。

新しい済票はシールタイプです。鑑札裏面に貼ってください。

・手数料……………550円

・手続きできる場所…出張所、烏山総合支所、世田谷保健所

・手続きできる時間…平日午前8時30分から午後5時まで

問合せ 世田谷区世田谷保健所生活保健課

〒154-8504 世田谷区世田谷4-22-35

TEL.03-5432-2908 FAX.03-5432-3054

企画制作:Lucy+K イラスト:marini*monteany

写真:橋本剛志・服部貴康